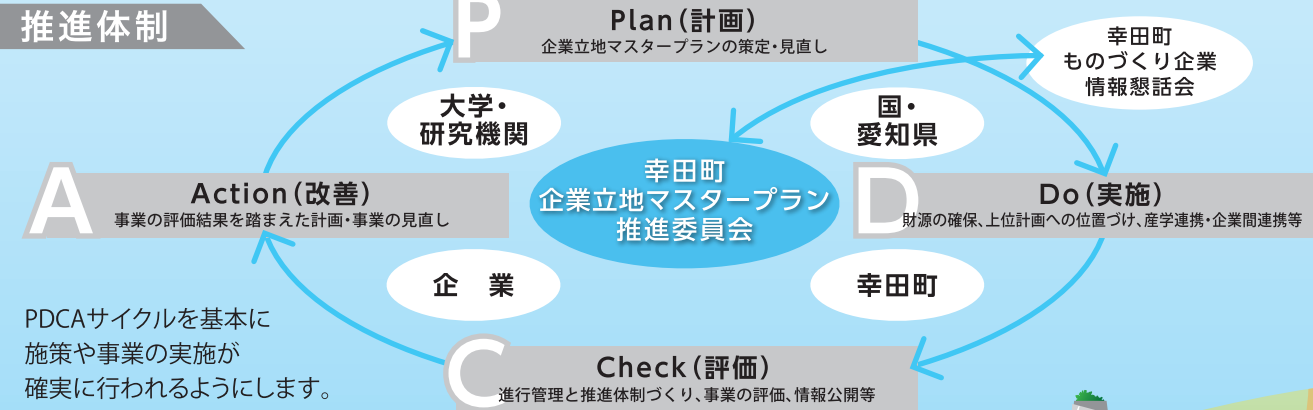


地域一体となった支援

新産業創出を目指して、行政が地域一体となって「日本で一番企業が活動しやすい町の実現」、「交通インフラの充実」、「地域と企業を結ぶづくり」を支援していきます。

<p>人づくり 地域と企業を結ぶ</p>	<p>地域・産学連携の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 産学連携による開発・研究の推進 大学(名古屋大学、豊橋技術科学大学、愛知工科大学等)、研究所(自然科学研究機構等)との連携 	<p>次世代産業を担う人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 起業家、経営者育成支援 ものづくり企業情報懇話会 幸田プレゼンテーション・シミュレーション・人材育成支援・雇用育成支援 	<p>次世代を担う人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ものづくり教育・創作活動の実施(少年少女発明クラブ等) グローバル人材の育成支援 高等研究機関の誘致
<p>みちづくり 世界とつなぐ</p>	<p>グローバル物流ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 中部国際空港のアクセス(名浜道路)の整備促進 港湾施設(名古屋港・三河港等)へのアクセス強化(名豊道路の早期4車線化等) 	<p>道路インフラの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 東名・新東名高速道路へのアクセス強化(国道1号へのアクセス道路整備等) 町道整備 	
<p>まちづくり 夢のある</p>	<p>企業が活動しやすいまちの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 拡大工業地区の整備促進 企業立地支援 企業活動支援 	<p>まちの魅力アップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 職住近接のまちづくり 働きがいのある社会環境づくり 緑と自然の豊かなまちづくり 	



PDCAサイクルを基本に施策や事業の実施が確実に実行されるようになります。



幸田町の概要

幸田町は、愛知県の中南部に位置し、中部圏の中心都市・名古屋市から45km圏内にあり、北は岡崎市、西は西尾市、南東は蒲郡市と接しています。東西10.25km、南北10.55kmで面積は56.78km²です。東部の遠望峰山の439mを最高に東部と南西部に100m～400mの丘陵が続ぎ、広田川を中心に平野が広がっています。温暖な気候に恵まれ、緑豊かな自然に抱かれた美しい町(緑住文化都市)です。



ビジネス環境
国道23号バイパス(都市計画道路名豊道路)、国道248号(都市計画道路蒲郡岐阜線)、県道西尾幸田線(都市計画道路衣浦蒲郡線)を中心に、広域的なアクセス道路が整備されつつあり、また、平成24年3月には町で3つ目となる東海道本線「相見駅」が開業し、物的・人的輸送面で優位な地域です。



- アクセス**
- 道路** 国道23号バイパス:幸田須美 IC、幸田桐山 IC、幸田芦谷 IC [東名岡崎 IC・音羽蒲郡 IC、伊勢湾岸道豊明 IC まで約30分] 国道248号(都市計画道路蒲郡岐阜線)
 - 鉄道** JR 東海道本線:幸田駅・三ヶ根駅・相見駅 [名古屋駅まで最短37分、東京駅まで最短2時間4分、大阪駅まで最短1時間51分]
 - 空港** 中部国際空港まで車で約80分
 - 港湾** 名古屋港まで車で約60分、三河港まで約15分
 - 住宅** 土地区画整理事業施行中5か所
- 【研究施設・大学】** 幸田町の周辺にある研究施設や大学など、産学連携を図ることができるネットワークを構築しています。
研究施設: 知の拠点、自然科学研究機構、国立長寿医療研究センター
大学: 名古屋大学、豊橋技術科学大学、愛知工科大学

情熱が未来をつむぐまち

つむぐ(紡ぐ)の本来の意味は、繭や綿から繊維を引き出して、より(縫い)をかけて糸を作ることです。幸田町は繊維のまちからはじまり、これからも様々な産業を織り交ぜながら新しい産業を創出し、町民が幸せになれる未来を織りあげていく姿を表しています。

幸田町は新産業創出に向けて、**Passion(情熱)**、**Decision(決断)**、**Creation(創造)**、**Action(行動)**で、取り組みます。

幸田町企画部企業立地課 <http://www.town.kota.lg.jp>

〒444-0192 愛知県額田郡幸田町大字菱池字元林1番地1
電話:0564-62-1111(内線341,342)
FAX:0564-63-5139
E-mail: companylocation@town.kota.lg.jp

平成26年3月発行



情熱が未来をつむぐまち

町民の暮らしのために

幸田町が持続的に発展していくため、
これまでに培ってきた農業・工業・商業などを最大限に活用し、
西三河地域の“ものづくり”の技術を生かした新産業を創生することで、
地域経済の継続的な発展とその成長の果実を暮らしへ反映し
「町民に豊かな生活と幸せをもたらすこと」を目指します。

基本的な考え

3つの基本理念

- 1 自然・人・多様な産業が調和し、町民が幸せになれる新産業創生**
幸田町は、「人と自然と産業の調和」を掲げ、培ってきた産業を活用し、さらに“ものづくり”の技術を生かした新産業を創生します。
- 2 地域の関連産業に根ざした産業クラスターづくり**
西三河地域の産業集積特性とものづくりの技術を生かして、既存産業分野の集積・高度化を図り、国際競争力を高め、海外への展開も見据えた事業環境の整備を推進していきます。
- 3 産学官連携、企業間連携による新たな産業・技術の企業立地**
世界に展開可能な新たな産業・技術の研究開発、イノベーションの推進への支援のために町が橋渡し役となり、産学官連携や企業間連携を推進し、既に先進的な取り組みを進めている立地企業を核として、新産業立地の実現を図ります。

目指していること

3つの基本方針

- 1 地域と企業を結ぶ人づくり**
周辺地域の大学や公的試験研究機関との連携、企業間の連携、新規雇用者の人材育成、研修支援はもとより、次世代産業を担う起業家・経営者の育成についても、町が“つなぎ粉”となり、企業が地域と強い絆で結ばれる関係づくりを支援します。
- 2 日本で一番企業が活動しやすい町の実現**
働く場の近くに、緑豊かで環境の良い住環境があることが重要です。また、起業家が活動しやすい環境づくりを行うことで、優秀な人材を確保していきます。そして、地域住民の安全・安心な生活環境や自然環境の保全に配慮した拡大工業地区の整備により、日本で一番企業が活動しやすい町の実現を目指します。
- 3 交通インフラの充実**
幸田町においては、東名、新東名へのアクセス道路の充実が求められています。さらに、国際競争力を高め、海外への事業展開を見据えた企業のためには、グローバル物流ネットワークとなる中部国際空港や港湾へのアクセス道路の整備促進が重要となります。

幸田町企業立地ビジョン。新産業創生の3つの柱

3つの基本理念と基本方針を受け、農業・工業・商業など既存産業の更なる発展も含めて、“新産業創生の3つの柱”を設定します

ビジョンⅠ
環境・人にやさしい輸送機械産業

グリーンモビリティ産業

高齢者も活動しやすい町となります。

ビジョンⅡ
健康長寿社会実現を支える健康・医療の成長産業

ヘルスケア産業

町民の「健康寿命」を支えます。

ビジョンⅢ
情報・環境技術で町の産業特性を活かす

スマートビレッジ産業

町民の快適な暮らしを支えます。

- 次世代自動車 (EV, PHV, FCV)
- 水素供給施設や充電施設
- 自動車の自動走行技術
- バイオ燃料等再生可能エネルギー

- 医薬品 (創薬)
- 医療機器
- 介護機器 (ロボット技術)
- 健康診断機器関連
- 機能性食品関連
- 健康器具 / 健康関連産業

- スマートハウス / スマートコミュニティ関連
- 低炭素型農業
- 6次産業化 (高付加価値型農業、植物工場等)

